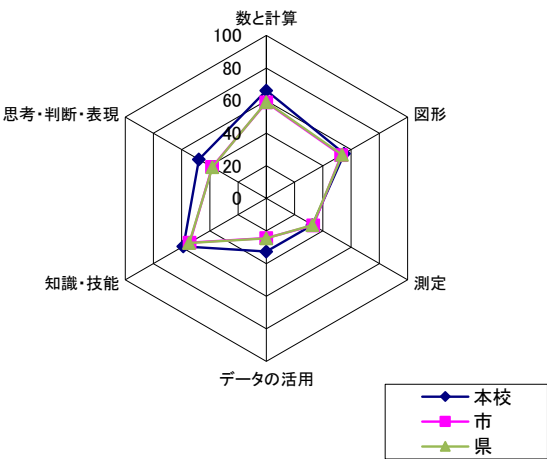


宇都宮市立東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.2	58.9	59.2
	図形	55.1	53.0	53.7
	測定	32.6	33.1	32.6
	データの活用	32.6	24.4	24.6
観点	知識・技能	58.8	54.3	54.7
	思考・判断・表現	47.8	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均を7ポイント上回っている。 ○基礎的な計算の問題は正答率が高く、よく理解していることがうかがえる。 ●大きな数の表し方について正しい説明を選ぶ問題、分数のかけ算の仕方について説明するなどの問題では、県平均を下回っている。	・数と計算など基礎的な内容はよく理解されており、今後も計算プリントやAIドリルを活用して計算練習を行うなど、自信をもって学習を積み重ねていくようにさせる。 ・日頃解き慣れていない問題や、考え方を説明することを苦手とする傾向が見られたので、日頃から様々な問題に取り組むようにさせたい。また、自分が解いた方法を説明をする経験を積ませる。
図形	平均正答率は、県の平均を1.4ポイント上回っている。 ○球の半径を利用して箱の辺の長さを求める問題、円の性質を利用して正三角形を作図する問題など基礎的な図形の問題はよくできている。 ●二等辺三角形になるためには、折り曲げた紙をどのように切ればいいのかを問う応用的な問題で県平均を8ポイント下回っている。	・算数だけでなく教科全体に言えることだが、問題文が複雑になる傾向が強くなっており、問題文を苦にせず読むための文章読解力が求められる。 ・解きなれていない問題に対してどう答えたらよいのか分からない傾向があるので、様々な問題に触れさせることはもとより、図形の作図をしたり具体物を見て触れたりするような活動を確保していくようにする。
測定	平均正答率は、県の平均と同じである。 ○道のりに関する基礎的な問題では概ね正答が出せている。 ●時間や重さでは単位の換算をしないと正答がでない問題が多く、正解を導き出すことができなかった。	・測定の問題では、単位換算が数多く出題されていたため、基礎的な単位換算の方法を定着させていく。 ・測定の問題では、一人一人が実際に測定の作業を行うようにさせ、経験が積めるようにする。
データの活用	平均正答率は、県平均を8ポイント上回っている。 ○目盛りの付け方が異なる二つのグラフで、棒の長さで数を比べられないわけを説明する問題では県平均を大きく上回っている。 ●棒グラフに示された値を読み取ることができるか、また、棒グラフの特徴と利点を理解し、身の回りの事象について書くことができるかどうかを見る問題で正答率は13～17%と低い。	・計算などと違って、データの活用の問題は日頃学習する機会が少なかったが、今後はICTを活用しながら児童一人一人がいろいろなグラフを扱ったり目に触れたりしながら、グラフの特徴などを理解できるよう指導していく。 ・複合問題や文章問題に対応できるように、日頃から応用問題に取り組ませる。